



2024 年度
第 43 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
「汗と涙」時代の自画像
チョ・ヘジョンさん
1976 年オリンピックの
英雄を称えて



2
アン・セヨンの手を
100%挙げてくれた
文化体育観光部
協会には会長解任を要求



3
スポーツ界は
どれだけ貧しかったら
専門家
「変わりそうにない」



4
大韓体育会
スポーツ公正委員会
本当に
不公正なのか？



5
「セルフ承認論議」
李ギフン
大韓体育会長
ついに 3 連任に挑戦？



大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



*

01 イ・ジョンソン 2024.11.02

「汗と涙」時代の自画像、チョ・ヘジョンさん、
1976 年オリンピックの英雄を称えて

1976 年モントリオール五輪は、五輪史上最悪の大会として記憶される。メインスタジアムは五輪開幕日まで完工していない状態で、莫大な予算を注ぎ込んだため、モントリオールは五輪が終わった後、30 年が過ぎてやっと全ての負債を返済ができた。

しかし、モントリオール五輪は、韓国スポーツが飛躍的に成長する上で重要な序幕だった。その 4 年前、ミュンヘン五輪で北朝鮮が射撃種目で金メダルを取ると、韓国政府はモントリオール五輪にすべてをかける必要がなかった。スポーツ南北対決での勝利が、国家安保の重要な要素として受け入れられた時代だったからだ。

韓国はモントリオール五輪で夢に描いた金メダルを獲得した。レスリングのヤン・ジョンモの金メダルとともに、韓国選手団は銀メダル 1 個と銅メダル 4 個を獲得し、韓国スポーツの新紀元を成し遂げた。

「日本ができるなら私たちもできる」

この時、韓国が獲得したメダルの中で女子バレーボール銅メダルもあった。韓国は 1964 年、日本女子バレーボールが五輪で金メダルを取り、1972 年五輪で日本男子バレーボールが金メダルを獲得し、バレーボールを五輪戦略種目に育てようと努力した。韓国選手たちと体格条件が似ている日本選手たちができるなら、私たちもやってみる価値があるという考えが裏付けられたからだ。

韓国バレーボール中興プロジェクトの中心には 1969 年に大韓バレーボール協会会長に選任された李ナクソンがいた。李ナクソンは第 2 軍司令部少佐の身分で、1961 年 5.16 軍事クーデターの主役だった。彼は朴チョンヒ政権時代、国税庁長や商工部長官などを歴任した。

国税庁長時代、無秩序と腐敗で点綴された税政を正し、2000 億ウォンの税源を確保する功績で経済開発にエンジンをかけた朴チョンヒ大統領の寵愛を受けた李ナクソンに大韓バレーボール協会会長の座が任されたのは偶然ではなかった。それだけバレーボールを韓国の有望種目と見ていたという意味だ。

極限のスパルタ訓練が作った五輪銅メダル

韓国女子バレーボールは 1973 年ワールドカップ（W 杯）女子バレーボール大会で 3 位につけた。この時、韓国のチョ・ヘジョン（1953～2024）は大会最優秀選手に選ばれた。すでに 1970 年、高校生として国家代表チームに選ばれたチョ・ヘジョンは、短身（164 センチ）であるにもかかわらず、驚くべきサージェントジャンプ能力（68 センチ）で相手のコートに空気を狙う精密打撃で深い印象を残した。特に彼女は滞空時間（空中に留まる時間）が長く、ネット上で変化に富んだ攻撃を繰り広げることができ、このために「私は小鳥」というニックネームを得ることになった。

韓国女子バレーボールはこの当時、世界最強の日本女子実業チームとの交流を本格的に始めた。さらに、李ナクソン大韓バレーボール協会会長は、国内スポーツ種目団体の中では異例の後援会を組織し、巨額の基金まで造成した。

国際舞台で成績を出すためには何よりも厳しいトレーニングが必要だという判断の中で、韓国女子バレーボールは1976年モントリオール五輪を控え、日本転地トレーニングまで実施した。この転地トレーニングには1964年五輪で日本女子バレーボールを世界トップに押し上げたスパルタトレーニングの代名詞、大松博文監督が参加した。

大松監督が指揮するトレーニングは厳しかった。疲れ果てて練習中に立ったままうとうとしてこっそりトイレに隠れる選手がいたほどだった。練習があまりにも大変でトイレに避難した選手の一人はチョ・ヘジョンだった。5分間トイレで眠っていた彼女は後に「この時が私の一生で最も熟睡した瞬間」だったと回顧した。

数々の困難を乗り越えてモントリオール五輪に出場した韓国女子バレーボールチームは、ユニホームの中にお守りまで入れた。たった一つの五輪メダルでもあまりにも大切だった韓国スポーツは、彼女らの善戦を切に願った。さらに、大韓体育会の金テクス会長は、女子バレーボールチームのために、ブロック練習の時、ボールを浮かせる役割まで厭わなかった。

選手たちとコーチングスタッフの努力はもちろん、周辺関係者たちの積極的な支援の中で、韓国女子バレーボールは韓国球技種目史上初のオリンピックメダルを獲得した。五輪銅メダル決定戦で、韓国は長身軍団のハンガリーを制した。選手たちは声を張り上げて泣き出した。チョ・ヘジョンはこの当時をこのように振り返った。

「夢に描いた銅メダルでもあったが、うんざりする地獄訓練から抜け出したという解放感がより大きかったためだ。」

1970年代の韓国社会の鏡「私は小鳥」チョ・ヘジョン

31日、71歳で早すぎたチョ・ヘジョンが残した言葉の中で、記憶に残る部分は特にモントリオール五輪を控えて行われたスパルタ訓練と関連したものが多い。

モントリオール五輪で銀メダルを目標にした女子バレーボール代表チームは、1日11時間の強訓に耐えなければならなかった。午前6時30分に運動靴を履けば、夜遅く宿舎に帰るまで脱げなかったわけだ。

韓国はモントリオール五輪でキューバをセットスコア3-2で下して準決勝に進出したが、日本に0-3で完敗した。日本はこのオリンピックで金メダルを獲得した。

チョ・ヘジョンはこの結果について、「後で日本は1日13時間ずつ練習していたことが分かりました。練習時間の2時間の差が金メダル（日本）と銅メダル（韓国）となったわけです」と話した。

このような厳しい地獄訓練は、今なら不可能だ。むしろ、絶対に止めなければならない部分だ。選手酷使や人権問題で厳しい社会的批判を受けざるを得ないためだ。

しかし、このようなスパルタ訓練は1970年代の韓国社会とあまりにも似ていた。当時、韓国は世界舞台で認められるところがほとんどない「無名でつまらない（ドゥッポジャブ）」国家であり、技術力と資本力が不足し労働集約的産業で経済を築いていかなければならなかった。

長時間仕事をするを当たり前と思っていた庶民の汗と涙は、この困難を乗り越えられる最も重要な部分だった。

短身にもかかわらず神技の技量を披露し、韓国女子バレーボールを率いた「私は小鳥」チョ・ヘジョンと女子バレーボール代表チームは、そのような点で韓国社会の鏡だった。毎日11時間の練習を通じて鍛えられた体力をもとに、絶えずコートに身を投げながら汗を流さなければならなかった彼女らの善戦は、多くの国民に自分の姿を連想させるのに十分だった。

1970年代、韓国社会はハンディキャップを押し切って異変を起こさなければならなかった時代だった。このような時代の状況を如実に見せてくれたチョ・ヘジョンと1976年女子バレーボール代表チームを記憶しなければならない理由もここにある。

出典：

https://www.pressian.com/pages/articles/2024110114283536142?utm_source=naver&utm_medium=search#google_vignette

02 京郷新聞 2024. 10. 31

アン・セヨンの手を100%挙げてくれた文化体育観光部、 協会には金テクギュ会長の解任を要求



文化体育観光部がキム・テクギュ大韓バドミントン協会長の解任を要求した。最悪の場合、協会を管理団体に指定することもありうると警告した。

文化体育観光部は31日、ソウル鍾路区の政府ソウル庁舎別館で行われたバドミントン協会の事務検査および補助事業遂行点検の結果、最終ブリーフィングで

「協会の補助金法違反行為に対する措置として、横領背任疑惑に対して29日松坡警察署に捜査を依頼した」とし、「直接責任ある会長は解任を、事務処長は重懲戒を、関連担当者もやはり懲戒を協会スポーツ公正委員会に要求した」と明らかにした。

協会は昨年、政府支援事業としてシャトルcockなどを購入する過程で、口頭契約を通じて約1億5000万ウォン規模の後援物品を受け取った。文化体育観光部が9月10日に中間発表した結果によると、この物品が公式手続きなしに地域に任意配布された。これを横領背任と規定し、文体部は前年度分1億5000万ウォンの返還を命令し、制裁付加金4億5000万ウォンを賦課した。

また、昇降制リーグと幼・青少年クラブリーグ事業、協会役員の運業者者に手数料支給などを問題視し、補助金還収事前手続きとして30日大韓体育会を通じて意見提出を要請した。その後、補助金不正受給委員会の審議を経て、返還額と制裁付加金を確定する予定だ。返還金と制裁金、そして選手団に支給されなかった後援会社の賞金返還まで合わせれば、総還収規模は約90億ウォンに達する。文化体育観光部は「国庫補助金還収期限はないが、直ちに還収するつもりだ。法令に従い厳重に規定通り執行する」と述べた。ただし会長解任も、管理団体指定も最終権限は文体部ではなく大韓体育会にある。現実的に会長解任と応じない場合、管理団体指定などを文化体育観光部が直接強制する権限はない。文体部は「大韓体育会に懲戒管轄権の上方修正を要求したが、10月に体育会が拒否した。協会が3ヵ月間しなければ体育会が直接すると言っているが、これまで体育会がそのような権限を行使したケースはほとんどない。改善されなければ、管理団体の指定を要求する計画だ」と明らかにした。

今回の事態は2024年パリ五輪バドミントン女子シングルス金メダリストのアン・セヨンの決心発言から始まった。これに対し文体部は8月12日、調査団を構成してバドミントン国家代表選手団の計51人のうち36人と協会、実業連盟関係者を個別意見聴取した。この過程で金テクギュ会長は応じず、一度も対面調査をしなかった。

文体部は「選手たちと個別面談した結果、アン・セヨンの考えとあまり変わらなかった」としてアン・セヨンが提起した協会と代表チームの問題を事実上全て受け入れた。相当部分がバドミントン代表チームだけでなく、他の種目まで適用され、鎮川選手村の運営指針まで変えるものと見られる。

選手負傷管理体制において、診断からリハビリ治療まで選手個人の選択権を保障し、鎮川選手村内の医療人材と空間を拡充し、選手村生活関連の不条理な文化を改善すると明らかにした。特に、選手らの公休日や週末の外泊や外出を自由に許可し、後輩が掃除や洗濯などをする不条理をなくすと話した。選手村内の山岳訓練なども廃止すると話した。

また、バドミントン代表チームに対しては種目別指導者支援、個人トレーナーの国家代表トレーニング参加保障、1・2 陣選手の戦略的な国際大会出場を分配すると明らかにした。アン・セヨンが指摘した単・ダブルス別の練習のため、代表チームのコーチ陣を現在の 13 人から 20 人に増やすと話した。従来とは異なり、総監督の傘下に単・複式別監督を別途に置き、コーチ 10 人、トレーナー 6 人、映像チーム 1 人を割り当てる方案だ。

さらに、国家代表選手が自費で海外プロリーグや海外招待試合に参加することを規制し、非国家代表は国際大会出場を規制する現在のバドミントン協会の規定に対して是正命令を下した。現在、バドミントン協会は非国家代表の場合、5 年間国家代表活動をした男子満 28 歳、女子満 27 歳の選手にのみ国際大会出場を許可する。文化体育観光部は「これを撤廃することを 9 月 12 日に是正公告したが、協会が生ぬるいため是正命令する」と明らかにした。

協会は、アン・セヨンが協会後援会社のヨネックスシューズに適応しにくい、強制的に履かなければならないという点が国政監査で指摘されると、最近後援会社と改善協議されるまでアン・セヨンに限って希望する靴を履かせるようにした。しかし文化体育観光部は「選手全体の普遍的権利」として協会の後援契約においてもアン・セヨン個人ではなく選手全体の用品選択権を保障しユニフォームに選手個人後援社ロゴを露出する権利も許容することも是正命令措置した。これによる協会後援会社と契約関連違約金発生時には文体部予算で解決すると言った。

アン・セヨンが五輪期間中に訪れた「ハン先生」(ハン・スジョントレーナー)で浮上した個人トレーナーの国家代表トレーニング参加も許容する。文化体育観光部は「2023 カタールアジアカップ大会以後、関連制度が整備された大韓サッカー協会の事例を他の種目に拡散させる」と明らかにした。

この日ブリーフィングをした文化体育観光部のイ・ジョンウ調査団長(体育局長)は「協会が今回も直さなければ自浄能力がないと判断し、協会のすべての役員を解任する管理団体指定、選手支援の他に他の予算支援中断など特段の措置を推進する」と明らかにした。

出典：<https://www.khan.co.kr/national/incident/article/202410311349011>

03 スポーツワールド 2024. 11. 01

バドミントンを含むスポーツ界はどれだけ貧しかったら …… 専門家ら「変わりそうにない」



アン・セヨンが決心発言をしてからすでに 2 ヶ月余りが過ぎた。文化体育観光部が 31 日、協会と代表チームの運営問題に関する改善策を発表するなど、変

化が少しずつ起きているが、専門家たちはまだ懐疑的に見ている。体育界の協会が反省できずにおり、膿んでいる団体も現れないように隠しているだけだということだ。

大人らしくない姿が繰り返される。責任を負わなければならない地位にいる上層部は、依然として選手を責めるのに忙しい。22日、国会で開かれた国会文化体育観光委員会の大韓体育会などに対する国政監査に証人として参加したキム・テクギュ大韓バドミントン協会長の発言は国民の怒りを買った。キム会長は「アン・セヨンが世界的なスターであるためか、選手村長や協会長に挨拶をしない」とし「今回デンマーク（オープン）大会に行っても先輩やコーチたちに挨拶をしなかったという連絡が来た」と話した。選手に対する態度がどれほど権威的だったかを垣間見ることができる。

スポーツコラムニストのチョン・ユンス聖公会大教授は「アン・セヨン選手が挨拶をしたか、しなかったかどうかは別として、公開的な席である国政監査で個人の性格のせいですべての問題を追い込むのは非常に危険なこと」とし、「責任がある人が無責任に話す態度が問題」と批判した。続いて彼は「大会中継画面に撮られたコーチ陣と対話しない姿、帰国をコーチ陣と別にした姿などこのような断片的な断片を集めてアン・セヨンの態度論難を指摘することはしてはならないこと」とし「挨拶をしなかった理由は組織全体を顧みなければならない問題」と指摘した。

決心した発言が人性の問題に変質するところだ。2024年パリ五輪で金メダルを取ったアン・セヨンは直後、協会の各種不条理を暴露した。「勇気ある発言と見るべきだ」というチョン・ユンス教授は「このようなことはバドミントン協会だけの問題だったり、アン・セヨン選手の独特なキャラクター問題では絶対ではない」として「アン・セヨン選手の発言は逆に言えば、成績や寄与度がない選手たちは悔しくても言えない雰囲気だということ」と声を高めた。続いて「韓国社会はまだ訓練環境や人権、補償、処遇などこういうことに対して選手が話をすればむしろ被害を受け、いじめになるのが慢性的な状況」とし「大韓体育会傘下のほとんどすべての種目にまたがっている問題がアン・セヨン選手を通じて顕著に現れただけ」と指摘した。

選手と協会の葛藤は昨日今日のことでない。種目別に多様な理由で続いてきた。西江大学教育大学院のチョン・ヨン Chol 専任教授は、「アン・セヨン選手が誰もできなかったことをしてすごいと思う」とし、「メダルを取れば選手と協会ともに良くなければならぬが、ほとんど協会が利益を全て取り、選手は有名になるだけだ。アン・セヨン選手は、「やることは全部やった。その次は大人たちの責任だ。ところが、責任ある大人たちがいないということがとても恥ずかしい。体育界でなくても、このような若い選手たちの苦情に耳を傾けて聞く人が必要だ」と伝えた。

どれだけ韓国スポーツ界の見通しが暗ければ、専門家たちはアン・セヨンの発言後にも変化がないと見るだろうか。チョン・ヨン Chol 教授は「アン・セヨンの発言が話題になり変化の機会と見ることもできるが、今まで協会がしてきた歩みを見れば変わりそうにない。組織自体があまりにも閉鎖的で、危機感も感じられない可能性がある」と指摘した。

体育人が体育団体の会長に上がってはならないという主張も出ている。「無条件に体育人が席を占めるべきだということは反対」というチョン・ユンス教授は「大部分の体育団体の会長は選手たちやその競技種目の発展条件形成、選手たちの補償体系改善に対してはほとんど気を使わない」として「輝く席に参加するだけだ。金会長の行動を見れば、選手たちを上から見下ろして尊重や礼遇なしに、一つの事物のように考える姿を見ることができる。このような構造は韓国スポーツ界の慢性的な問題だ」と批判した。

出典：<https://www.sportsworldi.com/newsView/20241031517280>

04 スポーティービーニュース 2024.11.01

大韓体育会スポーツ公正委員会、本当に不公正なのか？



大韓体育会スポーツ公正委員会は選手の褒賞・懲戒以外に大韓体育会長、会員種目団体会長を含む役員の再任審議を行う所だ。

〈大韓体育会定款〉第 29 条(役員の任期)には以下のように明示された。

① 理事(国際オリンピック委員会委員、事務総長及び選手代表を除く)の任期は 4 年とし、監査の任期は 2 年とし、それぞれ 1 回に限り再任することができる。ただし、次の各号によりスポーツ公正委員会の審議を経た場合には例外とする。〈改正 2018. 4. 2.〉

定款によると、大韓体育会長および種目団体会長は規定上、一度だけ再任できる。しかし、スポーツ公正委の審議を通過すれば、2 回以上の再任も可能だ。

文化体育観光部(以下文化体育観光部)は 9 月 9 日、大韓体育会に「スポーツ公正委員会構成&運営不正性関連是正勧告」公文書を送った。文体部は、スポーツ公正委員会の委員長を大韓体育会長が任命したため、本人が任命した委員に再任審議を任せるのは公正ではないと主張した。

大韓体育会は文化体育観光部の公文書に真っ向から反論した。

Spotiv News が入手した資料によると、大韓体育会は「スポーツ公正委員会は定款第 40 条に基づき規定、褒賞、懲戒再任審議などの議決権を持つ特別委員会だ。2016 年に初めて設置されて以来、定款と委員会の規定に符合するように内外の干渉なしに独立的で公正な審議手続きを通じて自律的に運営してきた」と答えた。

また、体育会は「スポーツ公正委員会の委員構成は代議員総会で選任権限を委任され、外部人事の過半数以上が含まれた委員、推薦委員会を構成した。審議の客観性向上のために大韓体育会を排除した法曹界、学界、スポーツ界、人権分野の外部専門家だけで構成した」と述べた。

最も核心となる部分は「このすべての事項は文体部と協議して構成を完了した」という点だ。

取材の結果、大韓体育会は定款と規定によって文化体育観光部にスポーツ公正委員会の構成に関する事案を共有した。4 年間、計 3 回のスポーツ公正委員会の構成に関する公文書を送ったことが確認され、文化体育観光部はすべて「問題ない」と承認した。

文化体育観光部のキム・ホンピル体育政策課長は Spotiv News とのインタビューで「種目団体および体育会長再任に関する定款改正を文化体育観光部は承認した。ただ、今になって見ると定款にある財政的寄与、国際大会成績などの寄与を計量化して審査するようになっているが、文体部の承認事項ではない審査基準が定款に違反し改善を要求した」と話した。

体育界は文体部がスポーツ公正委員会の不公正性は正勧告を下した「時点」に問題提起をしている。

体育界の関係者は「文体部はスポーツ公正委員会の不公正性を問題視しているが、論理的につじつまが合わない。文体部が承認した事案を大韓体育会会長選挙があまり残っていない状況で覆しているわけだ。

誰が見ても会長選挙に影響を及ぼそうとする意図としか見えない。問題があれば承認をしてはならず、選挙を避けて改正をしなければならない。文化体育観光部の行動は正当性を失った」と指摘した。

法人の定款は目的、組織、業務執行などに関する根本規則であり、法律的に非常に重要な根拠となる資料だ。

キャプテン法律事務所のホン・ソンファン弁護士は定款の重要性について「非営利団体の自律性を保障する根拠であり、同時に業務執行などにおいて責任所在を明確にできる制度だ。 有用に使う道具であり、間違っ
て使えば首を締め付ける刀になりかねないという趣旨だ」と説明した。

文化体育観光部は大韓体育会以外にも大韓サッカー協会のチョン・モンギョ会長の4連任に対する躊躇ない
発言も出した。 柳インチョン長官は「スポーツ公正委員会で承認すれば（再任）できるが、委員会が本当
に公正ならば再び出馬することは難しいだろう」と明らかにした。

大韓サッカー協会の定款によると、会長の任期は定款22条に明示された。 大韓体育会と同様、スポーツ
公正委員会の審議によって再任は可能だ。 これも上位機関である文化体育観光部の承認を全て受けた定款
だ。

＜大韓サッカー協会定款-22条任期＞

① 会長を含む理事の任期は4年とし、監査の任期は2年とし、次の各号により1回に限り再任(再任回数
算定時に他の会員種目団体の役員の経歴も含む)することができる。 ただし、会計監査は再任回数を制限
しない。 <改正 2020. 09. 22. 2022. 01. 26.>

第1項にもかかわらず、役員は大韓体育会スポーツ公正委員会の審議を経て役員の再任回数制限の例外を
認められる。 <改正 2020. 09. 22.>

すでに当選3回以上の会長が務めている大韓アーチェリー協会、大韓ハンドボール協会の定款も同じだ。
スポーツ公正委員会の規定によって、役員再任回数制限の例外が認められる。 大韓サッカー協会の定款
と同じ文句で明示された。

文化体育観光部の柳インチョン長官は「原則的に2回以上できないようになっている。 公正取引委員会に
3連任、4連任は問題があるので、この部分を是正してほしいと勧告した。 体育会で出馬を許可しても文
化体育観光部では最終的に承認しない」と明らかにした。

ある会員種目団体会長は「柳インチョン長官の主張が説得力を得るためにはすべての体育団体の再任を許
容してはならない。 ところが、文化体育観光部は国民的叱咤を受けた大韓体育会と大韓サッカー協会の会
長を攻撃し、世論集めだけに集中している。 本当に体育界を考えた跡は全く見えない」と皮肉った。

大韓体育会は7月、臨時代議員総会を開き役員再任制限規定を廃止した体育会定款改正案を可決した。 当
時、李ギフン会長は「大韓体育会会長を除く残りの体育団体長に対する再任制限規定をなくさなければな
らない」として文体部に承認を要請した。

再任制限規定をなくそうとした主な理由として「地方体育会の劣悪な状況」を挙げた。

李会長は「大韓体育会や市道体育会長までは問題がないが、さらに下に下があれば再任審査をする公取委構
成さえ難しい。 種目団体や地方体育会で役員を務めるほどの人物も不足している。 市郡区の会長は自分
のお金を払って奉仕する方々なのに、地方体育の根幹を維持する人々を追い出せば誰がするのか」と話し
た。

しかし文化体育観光部は関連定款改正案を承認しなかった。 地方体育会の役員不足問題についての言及は
なく、李ギフン会長と鄭モンギョ会長の再任は承認できないという言葉だけが繰り返された。

地域体育会の関係者は「地域の市道種目団体は1,195個、市郡区種目団体は8201個だ。 該当団体の会長
を含めた役員（理事および監査）数を少なくとも30人ずつ見積もっても、ほぼ30万人の役員がいる。 地

域種目団体役員は非常任であるにもかかわらず、上位団体である地方体育会の再任審査まで受けることは市道体育の行政浪費と見ることができる。会長選挙の場合、選挙人団が投票をする。候補欠格事由があれば出馬できないが、政治的な理由だけで再任制限規定廃止を承認しなかった文体部が理解できない」と話した。

体育人たちは、厳しい状況の中で自費を使って体育発展に貢献している地域の体育会長と役員たちがややもすると離れていく可能性があると警告している。

金ビョン Chol 大韓体育会スポーツ公正委員長も、体育界の危機を国政監査で言及した。会長の再任審査に対することは、体育発展に対する政策的アプローチだ」と明らかにした。

2019 年からスポーツ公正委に任命されたキム・ビョン Chol 公正委員長は「会長再任に対することは政策的判断だと考える。地方体育が崩れているという切迫した部分を体育会の実務者たちが来て政策提案をした。スポーツ公正委は体育会から独立的かつ自律的に審議議決する機構だ。われわれは審査の際、客観的な基準を持って公正に評価している」と明らかにした。

大韓体育会スポーツ公正委員会はすでに「役員の再任審査」と関連した公文書を会員種目団体に送り、10 月 21 日スポーツ公正委員会が開かれた。11 月と 12 月にも公正委が開催される予定だ。地方体育の不必要な行政浪費を減らし、毎回選挙の度に再任と関連した消耗的な論議をなくす案を模索する必要がある。

出典：<https://www.spotvnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=712595>

05 デイリーアン 2024. 11. 05

「セルフ承認論議」李ギフン大韓体育会長、ついに 3 連任に挑戦？



論議の中心にいる李ギフン（69）大韓体育会長が、体育界内外の激しい批判にもかかわらず、3 連任のための歩みを始めた。

体育会スポーツ公正委員会の小委員会は 4 日、ソウル松坡区芳蔭洞のオリンピック会館新館で小委員会を開き、李ギフン会長の 3 連任への挑戦を承認するか

どうかについての 1 次審査を行った。スポーツ公正委は審議内容を土台に 12 日に予定された全体会議で李ギフン会長の 3 連任挑戦承認可否を決める予定だ。

審査を通過すれば、12 月中に候補登録を終えた後、来年 1 月 14 日に実施する選挙に出馬することができる。現在まで柳スンミン元卓球協会会長、カン・シンウク檀国大名誉教授、キム・ヨンジュ元江原道体育会事務所長、パク・チャンボム元大韓ウシュ協会会長が次期大韓体育会長選挙出馬の意思を明らかにした状態だ。体育界の改革を叫びながら体育会と対立している文化体育観光部は、李会長の 3 選挑戦を阻止するために全方位的な圧迫を加えているが、李会長はついに 3 連任に挑戦する勢いだ。

もちろん、李会長が 3 選挑戦と関連して明確に立場を明らかにしたことはない。しかし、3 選の挑戦のためには、スポーツ公正委の審査手続きを必ず経なければならないだけに、事実上出馬の意志を示したものと解釈できる。李会長は審査申請後、直ちにポルトガルへ海外出張に出た。

李ギフン会長は 2016 年に初めて会長に当選、一度の再任にも成功した。再任の任期は今年で満了する。体育会の定款によると、体育会長は任期（4 年）を 1 回再任でき、3 期以上の再任に乗り出すためには、スポーツ公正委の審議を通過しなければならない。公正委は、国際舞台での影響力（国際団体の役員活動の

有無)、財政への貢献度、該当種目の競争力を強化するかどうかなどを総合的に審査し、承認するかどうかを決める。

李ギフン会長の3連任審査は、スポーツ公正委員15人のうち過半数が出席し、出席委員のうち過半数が賛成すれば通過する。問題は、スポーツ公正委が果たして公正性のある審査ができるかどうかだ。委員長をはじめ、委員の大半は李会長推薦の人物だ。

大韓体育会所属のスポーツ公正委は、金ビョン Chol 委員長が率いている。金ビョン Chol 委員長は2017年1月から2019年1月まで李ギフン会長の特別補佐官職を遂行し、2019年5月から今までスポーツ公正委員長として活動している。

「側近なので(審査)公正性が疑われる」という指摘に対し、金ビョン Chol 委員長は先月、国会文化体育観光委員会の国政監査に証人として出席し、「(李ギフン会長の)側近だとは思わない」と述べたことがある。当時、鄭モンギョ大韓サッカー協会長の親交説も強く否定した人物だ。

文体部をはじめとする大韓体育会労組など体育界内外では李ギフン会長が任命したスポーツ公正委員らが李会長の再任を審査することについて「セルフ審査」と判断した。

これに対し文化体育観光部は任期延長は例外を認めることなので厳格な審査が必要だが、現在の状態で手続きが進行されるのは審査の一般法原則である除斥・忌避・回避にも違反すると判断し、スポーツ公正委員会の構成および運営の不正性改善を勧告したが、大韓体育会はこれを拒否した。

すると文体部は先月10日、不正改善履行計画を提出するよう是正命令を下した。これに対し大韓体育会は監査院に文体部公益監査請求書を提出した状態だ。

文化体育観光部の柳インチョン長官は22日、国会文化体育観光委員会国政監査に参加し「世論を考えれば(李会長出馬が)不可能に見える」とし「李会長が当選しても文化体育観光部が承認しないこともありうる」と話もした。李会長は24日、文化体育観光委員会の総合監査の際、証人出席に応じなかった。

一方、大韓体育会労組はこの日、スポーツ公正委小委の会議室前で李会長の退陣を要求し、公正委に公正委と常識に基づいた審議を促した。

労組は「李会長はこの間、国会・政府・言論などの批判と労組の2回の糾弾声明書発表にも特別な立場表明や変化なしに強引にスポーツ公正委員会に対する体育会長3連任申請を提出した」と批判した。

また、「李会長は現時点でも依然として国会文化体育観光委員会への出席を避けるため、各種の小細工や海外出張日程を無理に決めていることが確認された。職員に向けては一抹の弁解や謝罪なしに逃避行歩だけ続けている」と指摘した。

出典：<https://www.dailian.co.kr/news/view/1425132/?sc=Naver>

06 週間スポーツニュース

野球スター7人、スポーツスター体育教室に登場

<https://www.hankyung.com/article/202411049555i>

大韓体育会労組「李ギフン会長3選反対」奇襲デモ

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20241104046800007?input=1195m>

光明市、プロビリヤード大会誘致…19～27 日、光明市民体育館で開催

<https://www.newspim.com/news/view/20241104000910>

生活体育大祝祭、益山で「東湖インリーグ王中王戦」熱く

https://www.newsis.com/view/NISX20241104_0002945572

体力をつけて公演も楽しんで…「慶北学校体育ハンマダン」人気

https://www.newsis.com/view/NISX20241104_0002945710

義王市、「障害者体育家族健康ウォーキングフェスティバル」開催

https://www.newsis.com/view/NISX20241103_0002944418

危機の韓国体育の方向性を探る

<https://www.dtnews24.com/news/articleView.html?idxno=781096>

嶺南大学、開校 77 周年記念「トレッキング体育大会」開催へ

<http://www.kyosu.net/news/articleView.html?idxno=126876>

龍仁市体育会、全国代表のウ・ジウォン招待「幼少年バスケットボール大会」

https://www.newsis.com/view/NISX20241103_0002944446

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。

皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。

体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー (資料室) <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>